

事業コード	H18-建-継-41		区 分	国庫補助 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・海岸・防災班 (tel) 018-860-2515
路線名等	赤石川		担当課長名	佐々木 卓郎
箇所名	にかほ市長岡		担当者名	主幹(兼)班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

1. 事業の概要

事業期間	H10 ~ H20 (11年)	総事業費	8.2億円	国庫補助率		
事業規模	延長L=732.0m 計画高水流量Q=40m ³ /s					
事業の立案に至る背景	赤石川は当該地区を大きく蛇行しながら流下しており、断面が狭小で沿川には住家が密集して張り付いており状態である。毎年のように浸水被害が発生している。特に昭和58年には浸水被害が31戸と地域の全戸数が被害受け、被害を解消するため昭和60年に局部改良事業に着手しているが、H10に同事業が打ち切れ、県単独事業として着手している。					
事業目的	放水路を完成させ、浸水被害の解消を図る。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	753,000	815,000	62,000		
	経費内訳	工事費	625,427	676,923	51,496	地盤改良のための工事費増
		用補費	126,000	136,458	10,458	補償物件の増による
		その他	1,573	1,619	46	測量費の増による
	財源内訳	国庫補助	0	0	0	
		県債	0	0	0	
		その他	0	0	0	
一般財源	753,000	815,000	62,000			
事業内容	掘削、築堤、護岸工、橋梁工、用地、補償	掘削、築堤、護岸工、橋梁工、用地、補償				
事業の進捗状況	全体計画 8.2億円 平成17年度末投資額 6.2億円 事業進捗率 76.5%					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	秋田21総合計画の中で河川の氾濫から人命と財産を守り、安全で安心できる地域をつくる河川改修の推進に位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	放水路の治水効果が発現するように計画的に予算過去に甚大な洪水被害を受けていることから、地元から早期完成が望まれている。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川整備率 = 改修延長 / 要改修延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	44.2 %		データ等の出典	県河川砂防課	
	実績値 b	44.4 %				
達成率 b/a	100.5 %		把握の時期	平成18年 3 月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当該区間は著しく蛇行し、河積が狭小であることから過去に甚大な浸水被害が発生している。また近年においても毎年のように浸水被害が発生している。そのため、早急に事業進捗を図る必要がある。	23点
緊 急 性	近年も毎年のように浸水被害が発生しており、早期に浸水被害を解消する必要があるが、当該箇所は、放水路であり完成しないと治水効果が発現されないため早急に完成させる必要がある。	14点
有 効 性	(手段の妥当性) 住家連担区間を回避することで経済性において有利であるため代替え案立案の必要性は生じない。 (整備効果) 放水路を完成させることで整備効果が発現する。	18点
効 率 性	(コスト縮減への取り組み状況) 排水樋管の統合を図るなどコスト削減に努めている。	8点
熟 度	(地域の状況) 地元より河川改修事業に強い要望がある。 (環境対策) 護岸工は擬石を使用し、魚道工には現地発生材を使用するなど景観に配慮している。	20点
判 定	ランク () 地元からの要望が高く「必要性」「有効性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。	83点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価
 適用基準名 小規模な河川改修事業

事業コード(H18-建-継-41)
 箇所名 (にかほ市長岡)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	過去の災害実績	6ha以上	20	20	
	浸水面積	5~1ha	10		
		1ha未満	5		
	重要な公共施設	2施設以上	5		
		1施設以下	3		
	計	無し	0	3	
			25	23	
緊急性	災害発生危険度				
	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	7	
		40~59%	7		
		60%以上	5		
	秋田県水防計画				
重要水防区域	評定基準区分A	10	7	7	
	評定基準区分B	7	7		
	計		20	14	
有効性	上位計画での位置づけ				
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5	
		施策目標に間接的に貢献する	3		
		施策目標とは別のその他関連事業である	0		
	河川整備の有効性				
	安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	
		親水性は現状と変わらない	0		
	地域開発の状況	都市計画区域に存する地域	3	1	
	地域開発の計画がある	1			
	予定なし	0			
	計		20	18	
効率性	事業実施コストの縮減				
	該当項目数	3項目以上	10	3	
		2項目	7		
		1項目	3		
		無し	0		
当初計画との比較					
当初計画事業費からの増減	減少または10%未満の増加	5	5		
	10%以上30%未満の増加	3			
	30%以上の増加	0			
	計		15	8	
熟度	環境との調和への配慮事項				
	環境保全への配慮	十分配慮されている	5	5	
		配慮は不十分で検討している	3		
		特に配慮はない	0		
	地元との合意形成の状況				
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	10	10	
	意向が強く要件の同意を概ね得ている	7			
	意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	3			
事業の進捗状況					
進捗率	計画より進捗している	10	5		
	概ね進捗(90~100%未満)	5			
	計画より遅れている	3			
	計		20	20	
合計			100	83	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		